

日本免疫不全・自己炎症学会雑誌（JSIAD Journal）投稿規程（最終案）

1. 投稿論文について

- 1-1. 日本免疫不全・自己炎症学会雑誌（英文名称：JSIAD Journal、以下本誌という）への投稿は、筆頭著者を日本免疫不全・自己炎症学会会員に限る。依頼原稿についてはこの限りではない。共著者は、The International Committee of Medical Journal Editorsの最新版統一投稿規定に示される役割を担った者に限る。
- 1-2. 論文の投稿は、本誌のみに発表するものであって、他雑誌（和文、外国語を問わず）に発表された論文、あるいは発表予定の論文の投稿ではないこと。他言語からのsecondary publicationも対象としない。
- 1-3. ヒトを対象とした研究は「ヘルシンキ宣言（以後の改訂を含む）」、国により策定された医学研究に関する最新の法律および指針に、また動物実験は「大学における動物実験の実施に関する基本的な考え方について（日本学術審議会）」およびこれらに準ずる指針の規定を遵守すること。特にヒトを対象とする研究においては、患者等の匿名性を十分守ったうえで、論文中に患者（あるいはその代諾者）からインフォームド・コンセントを得たこと、またはオプトアウトを行ったこと、所属施設・機関等の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を得た旨を記載すること。症例報告においても、個人が特定される可能性が高いと考えられる場合、患者（あるいはその代諾者）から書面による同意を得たことを記載する。同意が得られなかった場合は所属施設・機関等の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を得た旨を記載する。保険外診療や適応外使用に関しては別途必要に応じて所属施設・機関等の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を得た旨を記載する。介入研究のみならず観察研究（後ろ向き研究含む）も所属施設・機関等の倫理委員会・治験審査委員会等の承認を必要とする。症例報告において何例からの検討が倫理委員会・治験審査委員会等の承認を必要とするかは所属施設・機関等の倫理委員会・治験審査委員会等の基準に準じ、審査不要の場合はカバーレターにその旨を記載する。
- 1-4. ランダム化比較試験の投稿は臨床試験が事前に公的機関に登録されたものに限り、投稿はCONSORT声明に準じる。また登録番号を要旨に記載する。
- 1-5. 利益相反に関しては、日本免疫不全・自己炎症学会が定めるCOI規則に則り、投稿時に有無について開示する。
- 1-6. 論文の採択は、編集委員会で決定する。採択に当たって、編集委員会は原則として2名以上に査読を依頼する。採用の決定が行われた日を受理日とする。受理日以降は内容の変更（著者名の変更なども含む）は一切認めない。変更が必要な場合は、新規投稿扱いとなる。
- 1-7. 査読により訂正稿となった場合は、1か月以内に再投稿すること。期限を過ぎた場合には新規投稿となる。
- 1-8. 掲載の順序は受理日の順とする。ただし、必要書類提出など掲載条件が完了されない場合は掲載が遅れることがある。
- 1-9. 採択された論文は紙媒体および電子媒体で掲載する。
- 1-10. 不受理論文の再投稿は原則として認めない。

2. 論文種別と領域について

- 2-1. 本誌の論文の種別は総説（依頼総説・原著総説）、原著（臨床・基礎研究）、症例報告、短報とする。
- 2-2. 総説は、編集委員会からの依頼によるもの（依頼総説）と投稿によるもの（原著総説）とに分ける。ここで原著総説とは、過去に出版された論文をまとめることにより新しい概念を提案するもの、争点を整理し、今後の研究の方向性に示唆を与えるものとし、採否は査読を経て決定される。
- 2-3. 短報は速報性を重視した内容で、創意に富み可及的に掲載する必要がある論文とする。
- 2-4. 投稿時に論文の領域を申告する。論文領域は下記の通りとなる。
 - ① 複合免疫不全
 - ② 特徴的な症候群
 - ③ 抗体産生不全
 - ④ 免疫調節障害
 - ⑤ 好中球異常
 - ⑥ 自然免疫不全
 - ⑦ 自己炎症
 - ⑧ 補体欠損
 - ⑨ 基礎医学
 - ⑩ その他
- 2-5. 論文の種別、領域は最終的に編集委員会で決定する。

3. 執筆要項について

3-1. 原稿構成

- (1) 第1ページ目は表紙とし、表題、各々の著者の所属、著者全員の氏名、キーワード、連絡責任者の住所、所属、氏名、電話、FAX、e-mailアドレスを記載すること。
- (2) キーワードは5個以内とし、索引として役に立つものを選ぶこと。略語は使用しないこと。たとえば、FMFとせず、家族性地中海熱とすること。また、外国語を用いる場合は、適切な日本語がない場合に限る。
- (3) 第2ページ目以降は、以下の順に作成すること。1. 要旨、2. 本文、3. 利益相反、4. 著者役割、5. 文献、6. 表、7. 図の説明、8. 図、9. 英文抄録（表題、全著者、全著者所属、抄録）
- (4) 図、表は1点600字換算とする。

3-2. 論文種別の文字数、文献数、図・表は以下の通りである。

論文の種別	文字数 (本文+図 表)	要旨	文献	英文抄録	キーワード	組上がり 規定ページ 数
原著総説	15,000字以 内	600字以内	制限無し	250word程 度	5個以内	8ページ以内
原著(臨 床・基礎研 究)	15,000字以 内	600字以内	制限無し	250word程 度	5個以内	8ページ以内
症例報告	9,000字以内	600字以内	15編以内	250word程 度	5個以内	5ページ以内
短報	4,000字以内	300字以内	5編以内	150word程 度	5個以内	2ページ以内

3-3. 著者の所属は、投稿時のものではなく、論文に関係する仕事をした時のものを記すこと。

3-4. 表題は簡潔に論文内容を反映したものとし、原則として40字以内とする。副題は付けないこと。

3-5. 英文抄録は日本語抄録を忠実に反映させたものとして、英文抄録、その他の英語表現に関する部分について、英文校閲を受けた上で投稿すること。編集委員会で科学的知識を有するネイティブによる校閲が必要と判断した場合には、校閲を受けた証明書を添付すること。

3-6. 論文を分割し、第1報、第2報などとする場合、同一号に掲載する編数は2編以内とする。

3-7. 原稿は、以下の要領に従って作成すること。

- (1) 現代仮名遣い、常用漢字を用いること。
- (2) 表題には原則略語を用いないこと。ただし略語を使用したほうが分かりやすい場合は認められる。
- (3) 本文中に略語を用いる場合は、一般に使われているものに限る。その場合、初出の際に省略しない語を記載し、括弧内に略語を示すこと。
- (4) 原則として、外国人名は原語で、薬品名は一般名で記載すること。
- (5) 英数字は半角文字を用いること。

3-8. 図・表については以下の要領に従うこと。

- (1) 表は、本文を参照しなくても表のみで内容がわかるように必要な情報を簡潔明瞭に示し、表題をつけること。表は最小限の縦横罫線で作成すること。
- (2) 図の説明文は図とは別に原稿の参考文献の後に図の説明として明記すること。
- (3) 図・表には各々につきアラビア数字で番号を付すこと(図1、表1など)。
- (4) 図・写真は、そのまま縮小可能な形であること。従って、縮小されても情報が読み取れるものとする。
- (5) 患者の顔写真を使用する際は、患者本人および患者の代諾者に十分説明の上、文書で同意を得ること。本人が意思表示できない状態では、代諾者の同意のみとする。許可を得たことを写真の説明の中に明記する。被虐待児等の症例で同意が取れない場合には、倫理委員会等の承認を得て、その旨を写真の説明の中に明記し、目の部分を隠すなど、患者の同意を不可能にする工夫をすること。

(6) 他誌より図表を転載する場合は、出典を明記し、著者が事前に転載許諾申請を行うこと。

3-10. 数字、数量の単位等

(1) 数字はアラビア数字を用い、整数は三桁ごとに「, (カンマ)」を記入し有効数字を考慮して記載すること。

(2) 数量の単位はkm、m、cm、mm、 μm 、L、dL、mL、 μL 、kg、g、mg、 μg 、mEq/L、mg/dLなどを用いること。 mm^3 、 cmm などは用いず、 μL を用いること。

3-11. 著者全員の著者役割を、文献の前に例のように具体的に記載する。利益相反の後に掲載される。

例（著者名）は研究の着想と企画、データの取得、分析、解析に実質的な貢献をし、論文の知的内容を執筆（改訂）し最終版を承認している。

3-12. 引用文献

(1) 文献は投稿規定を超えないよう必要最小限にとどめること。

(2) 記載順序は引用順とし、本文中の引用箇所は、その右肩にアラビア数字を記入すること。

(3) 文献の書き方は、次の形式による。

1) 雑誌の場合：著者名．表題．雑誌名発行年；巻：最初ページ-最終ページ。

2) 単行本の場合：著者名．書名．版数．発行社の所在地名：発行社、発行年。

3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合：著者名．分担執筆部分の表題．編集者名．書名．版数．発行社の所在地名：発行社、発行年：分担部分の最初ページ-最終ページ。

4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合はIndex Medicusあるいは医学中央雑誌の収載誌略名を用いること。

5) 発行年は西暦を用いること。

6) ページは通巻ページを用いること。

7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「, 他」あるいは外国語文献の場合は「, et al」を付する。

8) ウェブページの場合

著者名（分かれば）．“Webページの題名”．Web サイトの名称．入手先URL，（参照日付）．とし、数年間はデータを保存する。

9) 和訳された文献

Bron EJ, Weistein MP, Dunne WM, et al. (松本哲也, 満田年宏訳) Cunitech血液培養検査ガイドライン.

10) 実例

a) Beltramin AU, Hertzig ME. Sleep and bedtime behavior in preschool-aged children. Pediatrics 1983;71:153-158.

b) 鈴木義之. 細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌1984 ; 88 : 405-408.

c) Cohen MM. The child with multiple birth defects. New York:Raven Press 1982.

d) 松永英. 日本における遺伝性疾患の頻度. 日暮眞編. 遺伝相談. 小児科Mook32.東京:金原出

版, 1984:1-11.

- e) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al. CDw75. In:Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al, eds. Lymphocyte typing IV:white cell differentiation antigens. New York:Oxford University Press, 1989:109-110.

4. 投稿について

論文の投稿は、電子投稿システムで行う。投稿要領については別紙に従い投稿する。

5. 掲載料とその他著者負担について

掲載料金については別途定める。依頼原稿は無料とする。

6. 著者校正と別冊・PDFデータについて

- 6-1. 初校は著者に送付するので、期日までに返送すること。期日までに返送されない場合は掲載が遅れることがある。初校校正以降の誤りは著者の責任となるので注意深く校正すること。
- 6-2. 校正では、字句の誤りのみを訂正すること。内容にかかわる変更は、著者の変更、キーワードの変更などを含め、一切認めない。
- 6-3. 別冊・PDFデータの料金については別途定める。校正の際、別冊単価（送料を含む）を通知するので、校正刷り返送の際に部数を指定し、代金を指定口座に振り込むこと。

7. 論文の著作権について

掲載論文の印刷、刊行、図表の引用および転載に関する許可の権限は日本免疫不全・自己炎症学会に帰属する。掲載論文の抄録部分（要旨を含む）のデータベースや抄録雑誌への二次的使用ないし転載、および当該論文の複写許諾権は日本免疫不全・自己炎症学会に委託されたものとする。

投稿要領

1. 論文の投稿は、電子投稿システムで行う。論文は、本文、図、表についてそれぞれファイルを作成し、投稿ウェブサイトからアップロードする。必ず投稿前にファイル内の文字化け、画像の鮮明度などを確認する。
2. 原稿は文章作成ソフトを使用し、A4判縦用紙に横書き（原則として12ptでdouble space）とし、タイトル頁に文字数（本文+図表、スペースを含めない）を記すこと。標準的なフォント（MS明朝、MSゴシック、Osakaなど）を用いたMicrosoft社のWordでの作成を推奨する。
3. 図はJPG、TIFFおよびGIFフォーマット作成を推奨する。印刷原稿の解像度は、300dpiを必要とする。トレースを必要とする場合およびカラーで掲載を希望する場合はその旨を明記する。
4. 表は標準的なフォント（MS明朝、MSゴシック、Osakaなど）を用いたMicrosoft社のExcelでの作成を推奨する。また、表ごとに別ファイルとし、表題をつける。
5. ファイルには、下記に例示（拡張子を含む）したように半角英数字を用いてファイル名を付ける。
例)
論文原稿：MainDocument.docx
図：Fig1.jpg Fig2.jpg Fig3.jpg
表：Table1.xlsx Table2.xlsx Table3.xlsx
6. 上記ファイルをまとめて一つのZipファイルとしてアップロードする。ファイルサイズは、20MBまでとする。

統計に関する注意事項

1. 項目毎に、用いた分析方法ならびに平均、標準偏差、95%信頼区間などを明記する。
2. 回帰分析をした場合、独立変数、従属変数などを明記し、その結果の解釈を明記する。

Secondary publicationについて

原則として、日本免疫不全・自己炎症学会雑誌に受理された論文を英語で他雑誌に投稿することは認められない。ただし、英文での診断ガイドラインなどに許可を得て転載する場合などの個別の案件については、学会事務局に問い合わせること。